

加東市議会と市民の意見交換会

日 時：令和5年11月7日（火）午後3時40分から午後4時40分

場 所：庁舎5階 第1委員会室

議 題：「加東市の幼児教育・保育の現状について」

出席者：【議会】

藤尾委員長、別府副委員長、長谷川委員、古跡委員、松本委員、
大久保委員、高瀬議長

【加東市保育協会】橋本恭子会長（東条こども園長）、鴨川佳子副会長（米田こども園長）、藤本富美子副会長（泉こども園長）、椎名ますみ（加茂こども園長）、出井美穂（加東みらいこども園長）、中村佳文（東古瀬こども園長）、浜口大介（高岡育児園長）、片山弘文（正覚坊こども園長）、前田潤子（三草こども園長）、小林緑（河高こども園長）、岸本梓（たきの愛児園長）、丸山義夫（たきの愛児園）、戸田潔子（秋津こども園長）、佐伯瑞穂（鴨川保育園長）、高島純子（さくら保育園長）

【発言の概要】 ※保育協会からの出席者の発言は「出席者」と表記する。

○ 藤尾委員長

年少児童の受け入れの現状や、保育士の確保の状況は。

○ 出席者

保育士の確保については深刻な問題だと思っている。0、1、2歳児は配置基準に基づき対応しているが、要支援者や外国籍の家庭など、様々な支援が必要となっている。また職員の出産・育児・介護・転勤など急な退職等もある。特に年度途中での人材確保は難しい。入所決定は2月だが、それ以降の対応、配置には苦勞する。保育士確保は課題である。

○ 藤尾委員長

保育士確保のための就職フェア等の支援策は効果が上がっているのか。

○ 出席者

明石市や神戸市などの都市部で一人住まいをしたい若い人が多い。都市部で補助金を8万円、10万円と出されると太刀打ちできない。採用では地元からの応募が減ってきている。

○ 出席者

就職フェアへの参加が多かった。採用に繋がり、効果があったと考えている。様々な事業を進めていく上でも保育士の数は必要だと思っている。また、若者は一旦都会に出たら田舎に帰ってきてもらえない。金銭面の補助など待遇が必要ではないか。

○ 藤尾委員長

配置基準について伺いたい。年少は非常に少ない人数で見ているとの話があったが、5歳児では何人の配置になるのか。

○ 出席者

4、5歳児は30人に保育士1人の配置で、3歳児は15人に保育士1人だが、1号認定（教育利用）が1人増えれば保育士は2名必要で、職員の数をみて、子どもの受け入れ人数を考えている現状である。

職員の配置状況によって国からの運営費が異なってしまう状況がある。園児が来てくれるかではなく、保育がどれくらい可能であるかという考え方で運営している。

10年、20年前は、小さい子どもをたくさん受け入れて何とか協力しないといけないという考えで受け入れていた。今は逆で、子どもはいるが保育士が足りない。

足りない分、子どもの受け入れを制限していかないと対応できない。

また、保育士を目指そうとする人が減ってきているのも課題である。

○ 松本委員

保育園で4月からオムツの持ち帰り廃止をもう実践してくださっているかと思う。市の補助は行き届いている状況か。

○ 出席者

今のところは、まだ補助金は請求段階である。まだ補助金が入ってきている園はない。全て費用を立て替えている。補助としては設置に関する部分についてと聞いているので、設置する場所の整備とゴミ箱は対象になるが、消耗品の費用については対象外と聞いている。

○ 藤尾委員長

今決まっている国の補助事業を利用している形なので、国の補助対象が設置、整備に関する部分で、消耗品は含まれないということになる。

消耗品になると、ゴミ袋や手袋などはこども園側で負担しているのか。

○ 出席者

使用済みおむつ保管用ゴミ箱には専用の袋があり、また消臭機能を付けるなどは園で準備するという状況である。

処理費用にしても、オムツの数は結構な量になるので業者の回収頻度を増やすなどして費用は増加している。

○ 藤尾委員長

市に交渉や要望はしているのか。

○ 出席者

何回か話はしたが、国の補助対象がそこまでだからとの話である。今のところそれ以上は広がってない状態である。

○ 出席者

回収費用は、毎月業者に回収してもらい、金額は月々2万円ほどかかっている。年間になると結構なお金になる。あともう一つ、使用済みオムツを置いておく場所の整備についての補助も要望したい。週2回しか回収業者が来ないので、しばらく置いておく必要があり、衛生面も考えた保管場所を整備しなければいけない。

○ 出席者

オムツ処理の件については凄く期待していたが、補助金申請では、専用のゴミ箱しか対象ではないとの事で、それに使うビニール袋等の消耗品は補助対象外という事だった。

不衛生なものだから、週2回、業者に回収してもらうようになった。市独自で回収にかかる費用を補助してもらえるとありがたい。

○ 松本委員

業者にかかる処理費はどれくらい発生しているのか。

○ 出席者

毎日来てもらうので、月に1万5,000円かかっている。

○ 出席者

11月からオムツ処分をするようになったが、それまでの回収は火、金の2回、オムツ処分を開始した11月からは月、水、金の3回に変更した。ゴミ箱を一つ増やして対応している。

○ 高瀬議長

現状として、運営上の一番の課題は何か。

○ 出席者

一つ目に、園と小学校の連携について

二つ目に、外国籍のお子さんへの支援について

三つ目に、保育士確保の課題

この三つに絞って、民間の園の方から市へ要望書を10月10日に提出している。

○ 藤尾委員長

外国籍のお子さん方への対応はどのようにしているか。

○ 出席者

当園では、9名外国籍の子どもがいます。小さいころから園に来てくれている子どもは、日本語で友達との関わりはできている。しかし、ちょっとトラブルになった時には言葉の問題で、平和的解決をするのが難しいこともある。低年齢の子どもの食事面などでお国柄が日本とは違うことについて、最初に保護者へ話すやり取りが難しかった。通訳など話せる人がいると助かる。

○ 出席者

こども園になって1号認定（教育利用）と2号認定（保育利用）のお子様が通園している。1号認定の子どもは幼稚園認定なので早く帰る。2号認定の方は保育認定なので、長時間預かる。

原価計算をしたときに、どちらに経費がかかっているかとなると長時間の2号認定の方にたくさん経費がかかっている。しかし国の基準は、1号認定の子どもに対する補助金のほうが多い。1号認定と2号認定の子どもへの補助金の格差を何とかしてしてもらいたい。

○ 藤尾委員長

3歳児、4歳児、5歳児では1号認定と2号認定が混じることになるが、その際の先生の配置はどのようにするのか。

○ 出席者

配置基準により保育士を配置しているが、子どもが1名増えたことによって保育士2人というクラスが出てくる。それによって職員の数が増えて、運営費が変わることになる。このような現状が今の国の制度で発生してしまっている。

○ 藤尾委員長

入所において、行政との調整は、どのようになっているか。

入所案内に記載されている定員しか我々には見えていないが、お母さん方からすると、兄弟で同じ園に預けられないこともあると思う。苦労されていることはあるのか。

○ 出席者

入所決定は行政で調整される。

今、地域で子どもの数がかかり減っている。地域の子どもがいても、他の地域の子どもが、点数で押しつけてこちらに入ってしまうなどもある。

園で調整したくてもできない。その調整ができる権利を与えてほしい。

○ 松本委員

市への要望事項にあった「園と小学校の連携について」とはどのようなことか。

○ 出席者

園小連携については、最近は新型コロナウイルスの関係で少し連携ができていなかった。それは仕方がないことだと思っているが、以前はお互いの行事見学や、1年生になる前の子どもたちの引き継ぎ、情報共有する連絡会などを実施していた。ただ日常的な授業を見学したり、保育を見てもらうなど、子どもの理解ということに関しても園としては進めていきたいと思っているのが正直なところである。保育も保育所の指針だとか教育要領が変わった。主体性を大切に作る保育や環境を通しての保育など、「生きる力」を育てるということで保育の現場の方では取り組んでいるが、小学校の授業を教科で学ぶという段階で大きなステップがある気がしている。そのようなことを踏まえてお互いの現状を把握して、子どもたちにとって、何が一番なのかということと、円滑な就学に向けて子どもが困らない、そのような体制作りが大切だと思っている。今は少し子どもたちの戸惑いがあるような気がしている。

○ 出席者

今回初めてこういう場を与えていただいて本当にありがたい。

これまで小学校や中学校とは連携や繋がりがあり、いろいろと一緒に進めていくことはあったが、議会と保育協会との繋がりと面においてはあまり進んでないような気がしている。園にも足を運び、園の子どもの様子を見て意見や質問をしてもらいたいという思いがある。

以上